様式3

学 校 番 号

20

令和3年度　学校評価書　（ 計画段階 ・ 実施段階 ）

福岡県立若松商業高等学校

自己評価

学 校 運 営 計 画（4月）			評　価（総　合）
学校運営方針	「商業教育の標」を構築し、専門性が高く、特色ある教育活動を展開することで、「若商ブランド力」を確立する。また、地域に信頼され、地域に貢献する社会人を育成する。		A
昨年度の成果と課題	年 度 重 点 目 標	具 体 的 目 標	
【成果】 ・昨年度は、コロナ禍の中、感染対策を全職員で取組み、生徒の安全・安心を担保すると同時に、生徒に信頼と誇りを持たせるための具体的な取組を実践することができた。 【課題】 ・今年度は、授業改善を始め、さらに生徒が学ぶことの喜びや達成感を持つことができるよう指導をおこなうことが課題である。	高い目標・目的を持たせる	「志を立ててもって万事の源となす」を旨とした教育活動の展開	
	基礎学力の定着と専門性の深化を図る	魅力ある授業・わかる授業に基礎・基本の定着を図り、共通教科の基礎学力を固め、専門性の深化を図る	
	検定試験の取得に力点を置いた指導の充実	検定試験に挑戦し合格する成功体験を積ませ、更なる高度な資格に挑戦させる	
	生徒のチャレンジ精神を育む	国公立大学及び難関大学への挑戦と、新たな求人開拓により生徒の希望進路実現をめざす。	
	広報活動の充実と本校の魅力発信を行う	学校活性化推進部を広報の主軸に据え、本校の魅力を地域や中学生に発信する。	

評価項目	具体的目標	具 体 的 方 策	評価（3月）			次年度の主な課題
学習支援	基本的生活習慣の確立	全職員による遅刻指導の徹底。欠課時数報告カードを有効活用し、生徒の欠席状況を把握する。	A	A	A	組織的に取り組む体制を整えることができた。昨年度の反省点を生かし、職員が共通理解を持ち、授業規律に取り組み授業は改善している。来年度から新しい学習指導要領へと変わることから、深い学びに繋げられるよう授業改善に取り組んでいきたい。 今年度も感染症拡大のため、生徒の授業をリモートに切り替えるなど、学びを止めないための方策を取ることができた。また、そのための機器の環境整備ができた。職員研修も予定通り実施できた。今後もリモートと対面授業の併用も視野に入れ準備を進めていきたい。 学校ホームページについては、更新頻度を上げ、教育活動の成果を発信していきたい。
	授業規律の確立	教務スタンダードに沿って、職員が共通理解のもと共通実践を行う。	A			
	生徒一人ひとりの資質・能力を伸ばす授業実践	生徒に高い志を持たせ、生徒がわかるという実感を持たせることができる授業改善の推進に努める。	B			
	校内研修の充実	生徒の学力保障と専門教科の指導力向上を図るため、職員研修を図る。	B	A		
	ICTを活用した校内研修の推進	ICTを活用し、様々な校外研修へ積極的に参加できるよう環境整備を行う。	A			
	「チーム学校の推進」	学習支援系列所属職員の協力体制を強化し、計画的・効率的に教育活動が行われるようにする。	B			
	学校ホームページ等の随時更新	校内の発行物の制作（学校案内、部活動新聞「ファイト」等）や教育活動を周知する。	A			
	効果的な学校訪問と出前授業の実施	機を得た学校訪問を計画立案し、「若商」の魅力を伝えるための工夫を図る。	A			
生徒支援	規範意識の育成	生徒指導・教科指導等をあらゆる教育活動において、統一した指導もと規則等の遵守を図る。	A	B	B	新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、学校行事や生徒会活動など、延期や規模縮小などを今年度も経験することとなった。しかし、職員と生徒共に、「できることを、できる範囲内で精一杯する」という共通認識で取り組むことができた。生徒にとって行事は、授業では経験できない、他者との協働を通して自分自身を成長させる機会であることから、感染対策を取りながら、できるだけ実施していきたい。 定期健康診断等は、実施日や実施方法について学校医と調整を重ねたことで、円滑に実施することができた。
	豊かな心の育成	校訓「自立・創造・協力」を通して豊かな心を持った生徒を育成し、自己有用感・肯定感・自尊感情を醸成する。	B			
	部活動の活性化と加入率の増加	部活動加入率40%を目標にするとともに、部活動の活性化を図る。	B			
	生徒会や各委員会の充実	生徒会活動や委員会活動を活性化し適宜会合を開き、学校行事等を充実させ、更なる学校の活性化を図る。	A			
	学校保健計画の実施による健康の保持増進	生徒の定期健康診断等の実施による、健康状況の把握及び健康の保持増進に努める。	A	A		
	感染症対策の徹底	新しい生活様式を周知し、正しい情報の元、適切な行動を選択するよう促す。	B			
	委員会活殿活性化	保健委員会等を計画的に開催し、自主的活動を促す。	A			
キャリア支援	基礎学力を高める	基礎学力を高めるため、学習方法を改善する。また、こころざし実現講座等の効果的な指導方法の改善を図る。	A	A	A	こころざし実現講座、基礎学習などが定着し、生徒の進路実現に向けた手段が充実させることができた。また、公立大学への進学者も本校としては久しぶりに合格者を輩出することができた。一朝一夕で進路を実現することができないことを教員と生徒が共通認識のもと、一日一日、一歩一歩、基礎学力の定着を図っていきたい。
	「学びの記録」の改善	新たな「学びの記録」を活用し、具体的な目標を持たせ、成果や課題を明確にさせる。	B			
	生徒の希望進路の実現	国公立大学等の進学指導の取り組みと、幅広い就職先の確保により生徒の進路実現を図る。	A			
第1学年	基本的生活習慣の確立	保護者との連携を図り、す油断生活を構成する一員であることの自覚を持たせる。	A	A	A	生徒情報の共有化を図り指導することができた。来年度についても同様の方針で指導していきたい。また、生活習慣の確立と他者を思いやる行動ができるように指導を継続したい。 進路実現に向け、キャリア教育を推進していきたい。
	授業を中心とした基礎学力の定着	授業や基礎学力テスト等に取り組むことが進路決定のに向けての学力定着に繋がることを自覚させる。	A			
	進路意識の推進	外部講師講話や進路ガイダンス等を通して、勤労意欲や上級学校への進路意識の向上を図る。	B			
第2学年	自主的・主体的な姿勢で粘り強く物事に取り組む姿勢の確立	校則や授業規律を守りつつ、積極的な姿勢で学校生活に臨むことができ、授業や学校生活へ主体的に参加する態度を育成する。	B	B	B	集団生活ルールを守り、自分自身の役割について理解することができるようになっている。また、中堅学年として果たすべき役割についても理解し、行動できたと考える。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、インターシップを経験させることができなかったことは残念である。来年度は経験できなかった就業体験ができるよう検討していきたい。また、進路実現のための基礎学力向上を図る。
	場に応じた振る舞いのできる生徒の育成	1年生と3年生との関わり方を学び、中堅学年としての役割を果たすことができるようにする。	B			
	進路目標を明確にし、主体的に情報収集や学習に取り組む姿勢を育成	進路ガイダンス、オープンキャンパス及びインターンシップを通し、早期に進路目標を持たせる。また、「学びの記録」等を活用し進路実現に向けた準備を行う。	B			
第3学年	社会の変化に順応していくことができる人材の育成	学校生活全般を通して、状況に応じた礼儀やマナーを学ばせ、適切な立ち振る舞いができる行動力を育成する。	B	A	A	第1進路志望実現に向けて努力し、結果を出すことができた。学年の垣根を越えて、教員の協力体制が整っていることも要因として挙げられる。1年生、2年生の見本であるとの自覚を持ち、卒業までの日々を送らせる。まだ、進路が決定していない生徒に対して、最後まで支援していきたい。
	主体的に学ぶ生徒の育成	協働的な学びや、個々の学びの場で主体的に取り組む態度を養い、多くの知識・技術を習得しそれを活用して思考力・判断力・表現力を高めることができるようにする。	A			
	第一進路志望の実現	生徒の希望進路を学年全体で共有化し、共通認識を持って生徒の指導にあたり、第一進路志望実現を図る。	A			
人権教育	自尊感情の育成	自己を肯定し、他者への共感力を身に付けさせることで、自尊感情を大切にする生徒の育成を図る。	B	B	B	校内職員研修や特別授業等を通して生徒、職員の人権意識を高めることができた。生徒が校外において他者を思いやる行動をとったとの報告も増えてきており、人権教育の成果があがっていると考える。今後も継続的に、人権・同和教育に取り組んでいきたい。
	人権・同和特設授業の充実	従来の計画だけにこだわらず、他社とのコミュニケーション能力や、多様な価値観への共感力を育成する。	B			
	人権教育に関する職員研修の充実	ネット上の差別に対する研修にも積極的に取り込み、人権教育に対する職員意識を醸成する。	A			
商業教育	高い「志」を持った生徒の育成	専門性の深化による資格取得での成功体験を重ね、上級資格への挑戦意欲を喚起させる。	A	A	A	資格取得への意欲を喚起し、受験対策ができたため、合格率は上昇した。また、上級資格へ積極的に取り組む姿勢が育まれた。
	地域から信頼される生徒の育成	地域との連携した実学を通し、地域の抱える課題を見つけ、共に解決する力を育成する。	A			
事　務	教育環境の整備	予算の節約を進める（5%削減を目標）とともに、必要性の高い施設修繕・物品購入を適切に措置する。 新型コロナウイルス対策に対応して、柔軟かつ臨機応変な予算対応等に努める。	A	A	A	予算削減の中、必要性の高いものから備品等の購入、修繕等を行うことができた。就学支援では職員と生徒の家庭状況の情報を共有し、適切に対応できている。
	生徒の就学支援	各学年と連携して生徒の経済状況の把握に努め、生徒の就学を適切に支援する。	A			

学校関係者評価

評　価（総　合）	自己評価は A ： 適切である B ： 概ね適切である C ： やや適切である D ： 不適切である
A	

項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
A	生徒の学習を継続するため、リモートで対応するなど、先生方の努力が感じられる。引き続き感染症への対応をお願いしたい。
B	各種行事について、感染拡大防止のため延期や規模縮小などの対応については、生徒及び教員の間で共通認識のもと、取組めていることについて評価したい。また、行事による教育効果を念頭に、行事を中止するという安易な決断ではなく、今後も実施方法等の変更で対応して欲しい。
A	公立大学への進学者を輩出するなど、生徒の第一進路希望実現のために様々な手立てを検討していることを評価したい。
A	今後も規範意識向上に向けた指導に期待したい。また、第一進路希望実現に向けた指導をお願いしたい。
A	集団生活に落ち着きがでてきたことを評価したい。一方で感染症拡大防止のため体験活動が十分にできていないことを、来年度どういった方法で補うのか検討をお願いしたい。
A	体育祭や若商祭などの学校行事でリーダーシップを発揮できた点について評価したい。また、進路実現に向けて様々な支援をしたこおとを評価したい。
A	今後も継続的に、人権・同和教育の推進に取り組むことを期待している。
A	上級試験へ向けた、指導の在り方が今後問われるのではない。合格率の更なる上昇に期待したい。
A	限られた予算の中で、様々な工夫が見られる。生徒の家庭状況など手厚い支援について評価できる。

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

・観点別評価やICT活用を推進し充実させることをとおして、生徒の学習意欲や学力の向上を図っていく。
・各種検定試験等を充実させ、キャリア教育の推進を図っていく。
・学校行事や生徒会活動を充実させるため、規範意識や挑戦する態度等の育成を図っていく。
・教育活動を充実させるため地域との連携を推進し、必要に応じてオンラインの活用を検討する。
・ホームページを随時更新し、情報発信をするとともに、様々な手段を用いて広報活動を推進する。

評価項目以外のものに関する意見

特になし